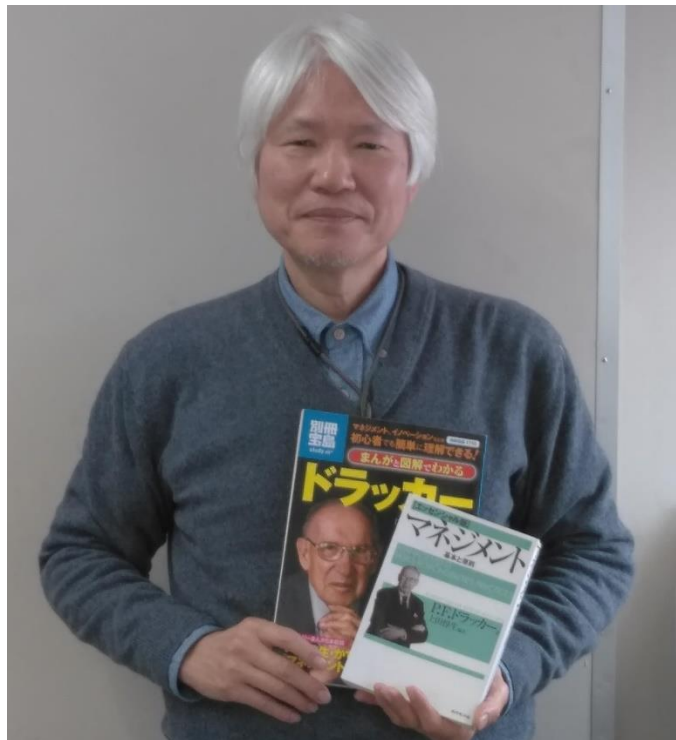


# 新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

新しい年がスタートしました。

2022年を振り返りますと、大きなトピックは、3つあります。

**1つ目は**、やはり守口市にある「守口障害者支援センターひだまり」の増改築です。施設の老朽化と支援スペースの狭隘が長年の懸案事項でした。「現地での増築・改修」という理想的な形で進めることができました。守口市や関係者の皆様のご協力に改めて感謝いたします。

現在工事進行中で、3月中旬には新棟が完成予定です。新棟完成後に既存の旧棟から引っ越し、旧棟を改修します。全体が完成するのは、5月末の予定です。設計士さんの経験談で、他の施設で、環境が快適になることで、利用者さんも大変穏やかに過ごすことができるようになったとのお話がありました。利用者さんが新しい施設で、ゆったりと快適に支援を受けられる様子を想像すると、完成が待ち遠しく、大変楽しみにしています。

**2つ目は**、新型コロナへの対応です。第7波への対応が特に大変でした。毎朝各事業所の主任レベルが集まり、情報を共有しました。課題となっているのは、実効性のあるBCPの作成による情報共有・意思決定・周知・法人内での協力体制です。2023年に入り、社会活動の制限も徐々に緩和されつつあり、第7波での対処ノウハウを生かして、事業継続に取り組んでいます。事業所で直接支援にあたる職員の皆様には、まだまだご苦労をおかけすることになりますが、利用者さんの笑顔が戻るよう努力していきましょう。

3つ目の注目は、職員研修に積極的に取り組んだことです。パワハラの研修、主任研修、キャリアアップ研修等です。コミュニケーション研修やメンタルヘルスケア研修など新しい気づきのある研修でした。研修では、日常業務を離れて、法人内の職員が顔を合わせる良い交流の機会ともなりました。職場で安心して働けるという当たり前のことが実際には、なかなか難しいということを感じています。研修の中で提示された「精神的安全性」「アサーション」などのキーワードに心がけた日常業務が「安心して働ける職場」の実現には求められています。

## 2025 ビジョン 「職場は、利用者と職員の笑顔で溢れている」

このビジョンは、2025年までのビジョンとして掲げているものです。組織は自らの組織に特有の使命を果たすために存在しています。私達は、障害福祉という特有の分野で成果を上げるという使命を持っています。そもそも私達の事業とは何なのでしょう？ 私たちにとっての成果とは一体何なのでしょう？ これらの質問の答えに共通する出発点は、ただ1つ、それは、「顧客」です。私達にとっての「顧客」は、一義的には、「利用者とその家族」ということになります。「利用者とその家族」の満足こそが、成果と業績を保障します。

私は、私達にとっての成果とは、利用者さんの笑顔だと考えています。利用者さんの笑顔が増えることこそが事業の成功だと言えます。

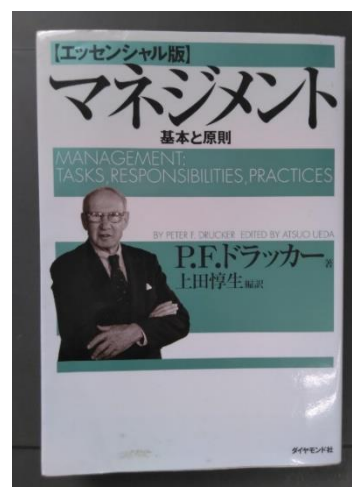
ですから、毎日の支援の中で問うべきは、「どうすれば、利用者さんを笑顔にすることができるか？ 今日、どれくらい喜んでもらえたか？ 笑顔にできたか？」ということです。正しい成果の設定こそが日常の業務を使命に結び付けることができるからです。

利用者さんの笑顔こそが、私達の成果であり、私達の原動力です。

みんなの力で、笑顔の溢れる職場にしていきたいと思います。

しかし、現実には、それほど単純ではありません。日常のやり取りだけで笑顔が実現できる訳ではありません。「利用者さんや家族は、可能性を奪われるような社会構造の中にいる」ということを知らなければなりません。そのあたりのことは、また機会があれば書いてみたいと思います。

実は、今回のビジョンについての内容には、マネジメントの父と言われるドラッカーの本やその解説本からの引用を多く使っています。私の「ノマダノート」には、ドラッカーの言葉がビッシリ書かれています。興味のある方は、ドラッカーの「マネジメント」から読まれるのが良いと思います。



社会福祉法人 大阪府肢体不自由者協会  
理事長 野間田 徹